

非鉄金属市況と需給動向

2023年4月（銅、亜鉛、ニッケル、金・白金族）

独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構

おことわり: 本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

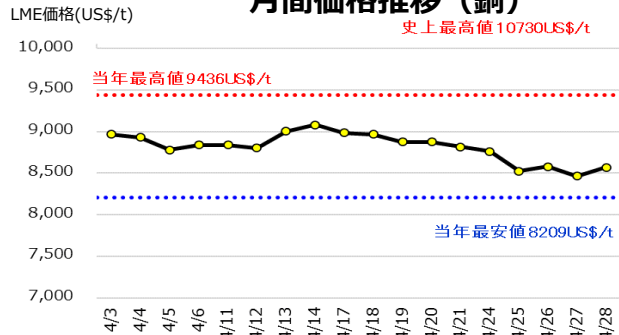
ベースメタル市況動向

実需回復が見られず銅・亜鉛は下落傾向に、一方供給面はタイト感が強く価格を下支え

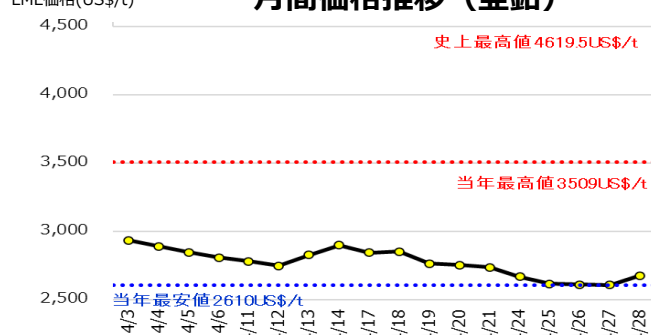
■4月市況動向

- ① **銅・亜鉛、上旬は弱いマクロ経済の動きにより下落も中旬は米ドル安で反発**：当月、銅は8,966.0US\$/t、亜鉛は当月最高値2,937.0US\$/tでスタートした。3日、OPECの減産による石油価格の急騰が米国におけるインフレを引き起こし、米金利上昇の可能性が高まるという見方が強まった。5日には、2023年3月の製造業PMIは、米国は対前年比20%減となる46.3、中国は市場予測を下回る50.0と発表された。また、中国の2023年1～2月自動車生産台数は前年同期比14%減となり、弱いマクロ経済や各国実需要の低迷が圧迫要因となった。しかし、銅に関しては、チリCodelcoが、続く干ばつや鉱石品位低下のため2023年生産量見通しを引き下げた。チリの銅月生産量は6年間で最低となり、供給懸念が大幅な下落を抑制した。一方、12日、米3月消費者物価指数（CPI）の伸び率は前年同月比5.0%の上昇と大幅に減速し、インフレ鈍化期待による米金利緩和見込み・米ドル安から反発した。銅は14日に当月最高値9,082.0US\$/tをつけ、亜鉛も当月最高水準まで上昇した。
- ② **銅・亜鉛、下旬は再度の経済減退見込み台頭により下落傾向、供給の緩和も下落に影響した模様**：依然米国では強いインフレが続いているという見方が台頭し、再び下落傾向となった。銅に関して、19日、DRコンゴにおいて、CMOC GroupがGecamines社とロイヤルティの問題に対する合意に達しTenke Fungurume銅鉱山からの輸出再開可能性や、中国3月の銅輸入量が前年比19%減となったことも影響した。またチリでCESCO銅会議が開催されチリの減産など潜在的な供給懸念が指摘されたが、実需用冷え込みへの警戒感が大勢で影響は限定的だった。亜鉛は、LME在庫が低水準ながら年初来216%増となっており、欧州の製錬所操業再開と合わせて需給が緩和している。27日、中国の工業利益や米国の第一四半期GDPなどが全て市場予測を下回ったことで銅は8,465.5US\$/t、亜鉛は2,610.0US\$/tと当月最安値を付け、各々8,571.0US\$/t、2,680.0US\$/tで越月した。
- ③ **ニッケル、上旬は景気動向で圧迫も中旬からは需給懸念が押し上げる**：当月のニッケルは、23,560.0US\$/tでスタートした。上旬は銅・亜鉛と同様に米金利上昇見込みや世界的な需要の弱さに圧迫され、6日に当月最安値22,500.0US\$/tをつけた。11日、年初より20%近く減少しているLME在庫の状況から、Class 1の需給が引き締まっていることが示唆され上昇した。また同日、Global Commodities Holding（GCHL）社とPT IKIがインドネシアにおける「ニッケル指数」を導入するという覚書を発表し、市場がLME以外のベンチマークを求めるというLMEの信用問題に改めて焦点が当たると、上昇幅は大きくなった。18日、インドネシアで錫の輸出禁止計画が進んでいるという話が市場で広まり、すでにインドネシアでニッケル鉱石輸出は禁止されているもののさらなる規制に対する懸念が強まった。さらに20日、BHPがNickel Westニッケル精錬所における環境問題などで2023年の生産量ガイダンスを削減し、供給懸念が増す中25,540.0US\$/tと当月最高値をつけた。27日、INSGが2023年のニッケル需給バランスは供給過剰という見通しを発表したことで需給タイト感は緩和、月末は横ばいに推移し23,770.0US\$/tで終えた。

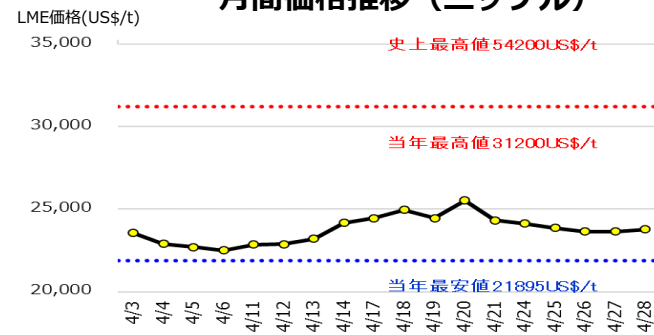
月間価格推移（銅）



月間価格推移（亜鉛）



月間価格推移（ニッケル）



需給動向 -銅-

ICSGによる世界地金需給バランス予測、2023年は114千tの供給不足、2024年は298千tの供給過剰

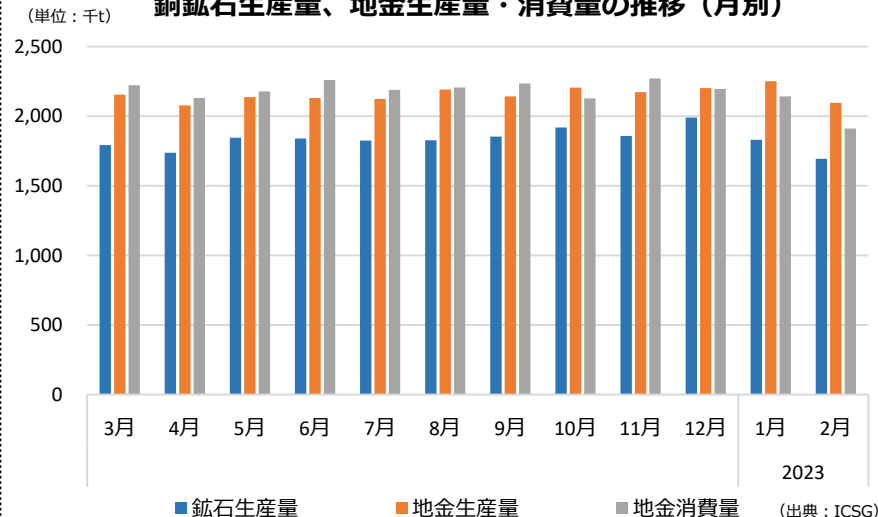
■需給動向（4月発表分）

- ① **2023年の世界鉱石生産量の伸び率は3%、2024年は2.5%の予測**：国際銅研究会（ICSG）によると、操業上の事由、数力国での企業ガイダンス改訂やペルーでの地域活動により2023年の世界鉱石生産量の伸び率は2022年10月の予測を下方修正し3%。DRコンゴのKamoa-Kakula鉱山やTenke Fungurume鉱山、ペルーQuellaveco鉱山やToromocho鉱山、チリQuebrada Blanca鉱山からの追加生産が寄与。2024年は主要プロジェクトの稼働が年後半になるため伸び率は2.5%に留まる見込（28日）。
- ② **2023年の世界地金需給バランスは114千tの供給不足予測**：ICSGによると、2023年の世界地金供給量は南米での新規プロジェクトや、中国やDRコンゴでの処理能力拡張による供給拡大が見込まれ26.3百万t（前年比2.6%増）、世界地金消費量はコロナ禍からの回復でアジアや欧州の需要が増え26.4百万t（同比1.4%増）、**2023年の地金需給バランスは114千tの供給不足**の予測。但し2022年よりは不足幅が狭まる（28日）。
- ③ **2024年の世界地金需給バランスは298千tの供給過剰予測**：ICSGによると、2024年の世界地金供給量は、2022～2023年にかけてペルーQuellaveco・チリQuebrada Blanca・DRコンゴKisanfu等新規・拡張プロジェクト稼働により27.5百万t（前年比4.4%増）、世界地金消費量は中国の消費量の増加から27.2百万t（同2.8%増）で、**2024年の地金需給バランスは298千tの供給過剰**の予測（28日）。

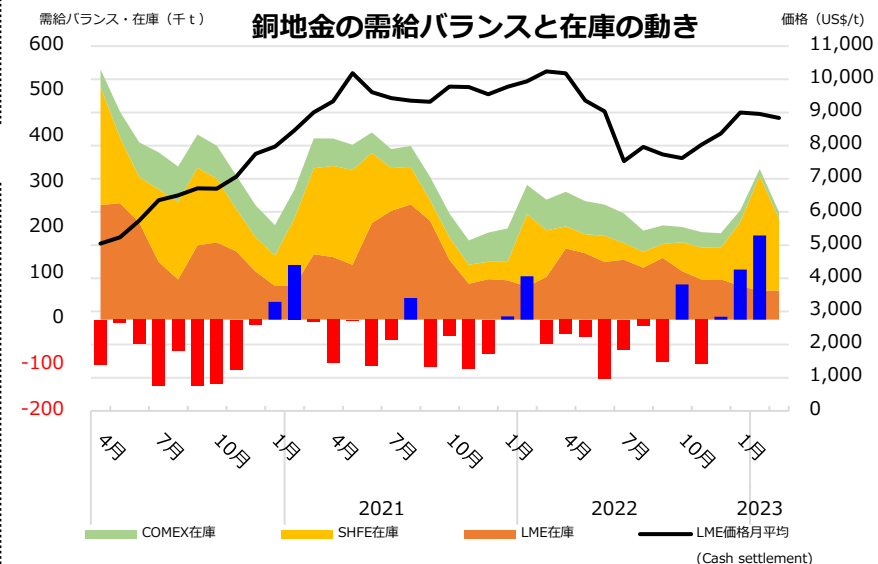
■企業動向

- ① **Hudbay Minerals社（加）**：加Copper Mountain Mining社の全株式を約439mUS\$で買収することで合意。合併後の2023年銅生産量は150千t以上と予想されており、カナダで3番目の銅生産企業となる予定（13日）。
- ② **Anglo American（英豪）**：Los Bronces鉱山坑内掘拡張プロジェクトが規制当局の環境許認可を取得。これにより同鉱山のマインライフは2036年まで延長、銅生産量が150千t/年増加する見通し。本件は2022年5月に環境評価局（SEA）によって却下され、Anglo Americanが同結果を不服として閣僚委員会へ訴えていたもの（18日）。
- ③ **Antofagasta社（チリ）**：2023年第1四半期の銅生産量は2022年第4四半期から25.4%減少。Centinela鉱山での品位低下とLos Pelambres鉱山での水不足の影響によるもの。但し前年同期比では5.1%増、2023年全体の生産量は670～710千tの見通し（19日）。

銅鉱石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



銅地金の需給バランスと在庫の動き



需給動向 -亜鉛-

ILZSG発表の2月需給バランスは7か月ぶりの供給過剰、2023年のバランス見通しは供給不足が続く

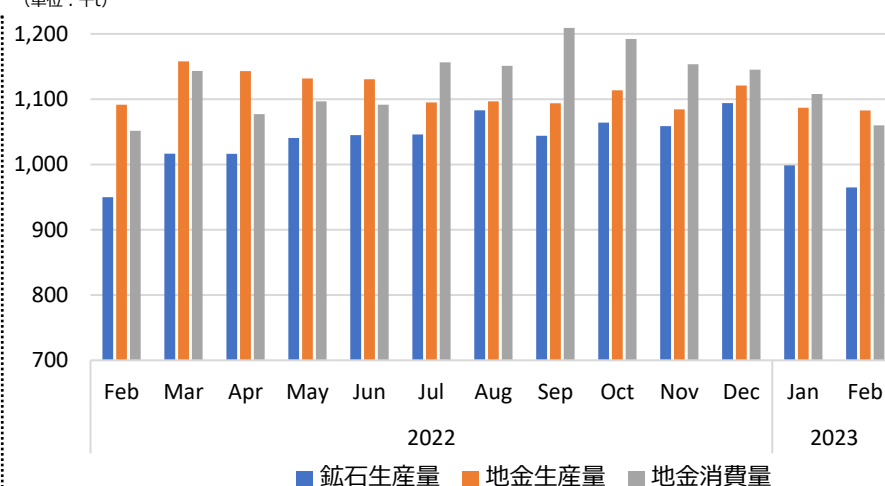
■需給動向（4月発表分）

- ① **2023年2月鉱石生産量は減少**：国際鉛亜鉛研究会（ILZSG）2023年4月発表によると、2023年2月の鉱石生産量は964.9千t（対前月比3.4%減、33.8千t減）と対前月比で減少した。中国で春節が終わったにも関わらず生産が伸び悩んだ他、生産コスト増加を背景にアイルランド・スウェーデンで減産した。また豪州では中MMG社のDugald River 鉱山が事故で操業停止したことにより10%近く減産し、米国では加Teck Resources社のRed Dog 鉱山が猛吹雪の影響を受けたことにより減産している。道路封鎖やストライキが収まりつつあるペルーでは、小幅な増産が見られた。
- ② **2023年2月需給バランスは7か月ぶりに供給過剰に**：2023年2月の地金生産量は1,082.8千t（対前月比0.4%減、4.1千t減）、地金消費量は1,060.0千t（対前月比4.3%減、48.0千t減）で**22.8千tの供給過剰**となった。地金生産量は、中国・韓国・ドイツなどで小幅に減産するも、概ね堅調に推移した。一方地金消費量は、中国で低迷する経済により冷え込む実需要から減少し続けているほか、韓国・ドイツ・イタリアなどでも減少した。消費量の減少により、需給バランスは7か月ぶりに供給過剰となった。
- ③ **2023年の需給バランス予測は45千tの供給不足**：ILZSG春季大会で、2023年の亜鉛の需給バランスは**45千tの供給不足**という予測が発表され、2022年10月の予測である150千tの供給不足から大幅に需給が緩和された。鉱石生産量は、加Lundin Mining社の葡Neves-Corvo 鉱山の拡張や英Adriatic Metals社のボスニアヘルツェゴビナVares 鉱山の操業開始により、世界全体で3%の増産が見込まれている。また地金生産量は、中国・豪州・カナダ・カザフスタン・メキシコで増産するほか、エネルギー価格高騰により2022年に大幅減産していた欧州では2.3%の増産となり、全体で3.1%の増産が予想されている。地金消費量は、中国でメッキ向け需要が拡大するほかインド・韓国・トルコ・米国でも需要が増加し、全体で2.1%の増加となっている。

■企業動向・その他

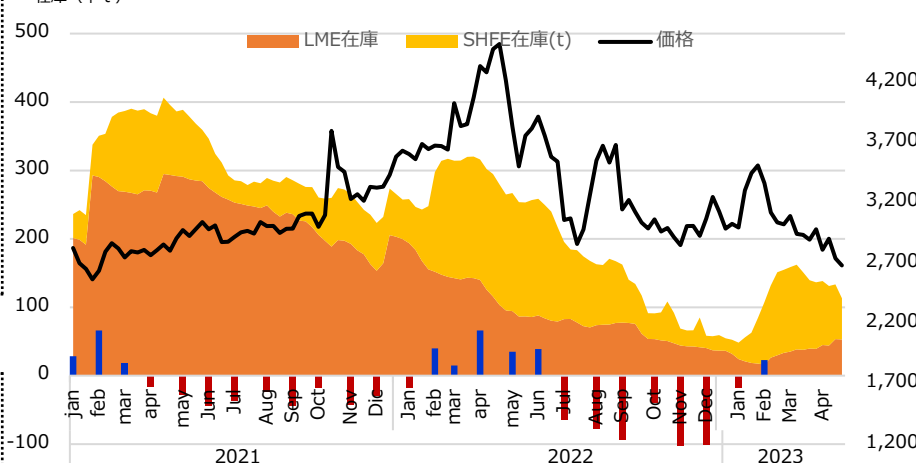
- ① **Ivanhoe社（加）**：DRコンゴKipushi 鉱山の生産再開予定を早めるため、Glencoreと2024～2028年に全鉱石を引き取る計250mUS\$のオフテイク契約を締結（27日）。

（単位：千t） 亜鉛鉱石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



（出典：ILZSG）

需給バランス・在庫（千t） 亜鉛地金の需給バランスと在庫の動き （単位：US\$/t）



※需給バランスのデータは、公表されている2023年2月まで反映。

需給動向 - ニッケル -

INSG、尼の生産増を背景に2023年は供給過剰拡大と予測、尼Obi島では6月～硫酸ニッケルも生産予定 ■需給動向（4月発表分）

- ① **プライマリーニッケル2023年2月需給バランス**：国際ニッケル研究会（INSG）2023年4月発表によると、2023年2月の世界ニッケル需給バランスは**20.8千tの供給過剰**となった。なお、INSGによると、2022年5月から需給バランスは供給過剰傾向が続いており、2023年2月で10か月連続で供給過剰となった。
- ② **2023年2月の尼ニッケル生産・輸出状況**：INSGの国別データによると、インドネシアのプライマリーニッケルの生産量が107.0千t（前月104.0千t）となった。また、同国からのニッケルマットの輸出は、中国に12,788t、日本に6,848t、ノルウェーに4,928tで中国が最大輸出先となっている。

■関連動向

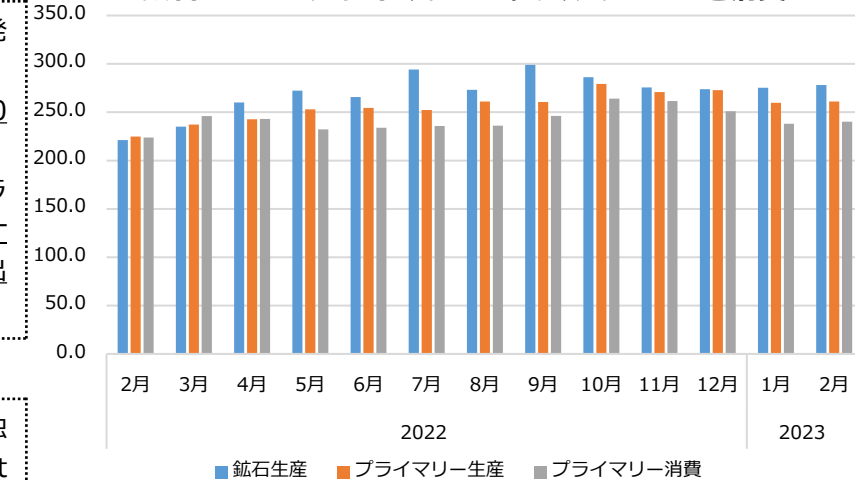
- ① **尼Joko大統領、EV用ニッケルプロジェクトについて欧州企業と会談**：Joko大統領は、独Hannoverで、独BASF社、仏Eramet社、独Volkswagen社の代表と会談、BASF社とEramet社は現在Weda BayにHPALプロジェクトを開発中（17日）。
- ② **INSG、2023年の供給過剰の拡大を予想**：INSGは、インドネシアでニッケルの生産量が増加していることを理由に、世界の需給における供給過剰傾向が2023年は大幅に拡大すると予測。4/24～25にLisbonで開催された国際非鉄研究会で、2023年の世界のプライマリーニッケル供給量を約3.4百万t、需要量を約3.1百万tと発表（28日）。

■企業動向

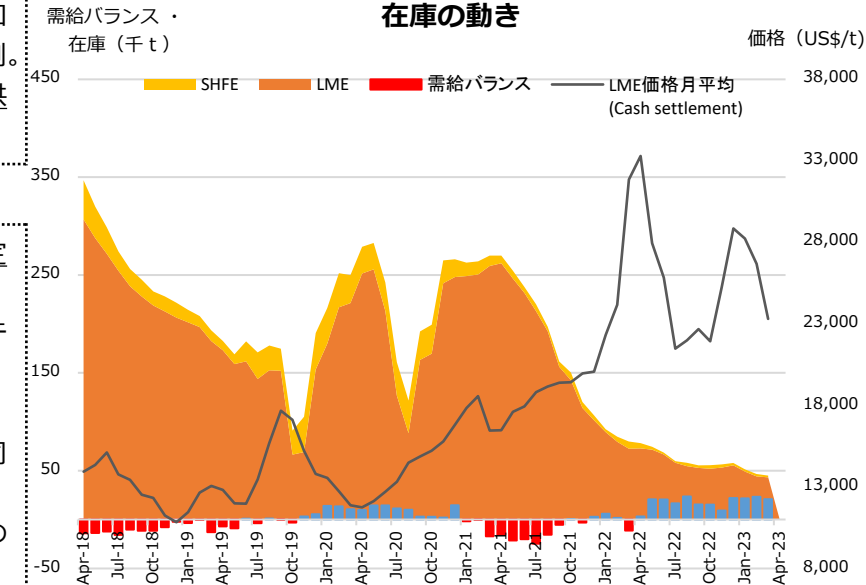
- ① **Harita社（尼）**：2023年6月～Obi島のHPALプロジェクトで硫酸ニッケルの生産を開始予定と発表。現在硫酸ニッケルのプラントは試運転段階（11日）。
- ② **PT Antam社（尼）**：韓LG Energy Solutions社率いるコンソーシアムと、統合EVバッテリープロジェクトの開発について、5月に協議を再開し調印を行う予定（13日）。
- ③ **Nickel Asia社（比）**：今後3年以内にニッケル鉱山とHPALを2件開発予定（25日）。
- ④ **Nickel Industries社（豪）**：西PapuaのSiduarsi鉱区でフェーズ1の掘削を完了。今後、同鉱区で生産した鉱石を尼の工業団地（IMIPまたはIWIP）に出荷することを検討（27日）。
- ⑤ **Alliance Nickel社（豪）**：蘭自動車メーカーStellantis社とバッテリーグレードニッケル等の供給契約を締結（28日）。

（単位：千t）

鉱石生産量・プライマリーニッケルの生産量と消費量



プライマリーニッケル需給バランスと在庫の動き



需給動向 -金・白金族-

金、早期の利上げ終了観測で2,000US\$/oz前後の高値圏で推移、プラチナは南アの供給懸念で上昇

■金市況動向

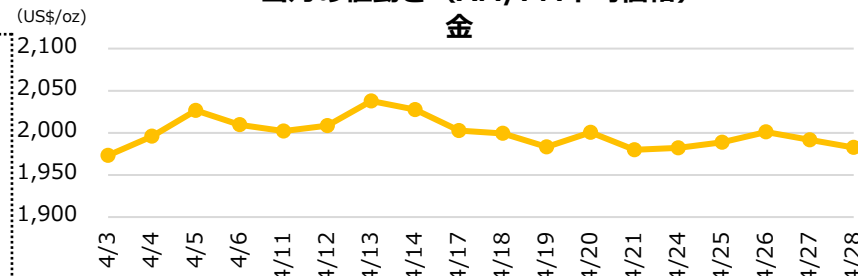
- ① **米、景気冷え込みも比較的安定した労働市場で上下**：当月最安値となる1,973.2US\$/ozでスタート、3日発表の米3月製造業PMIが49.2、4日発表の米2月JOLT（求人労働移動調査）求人件数が1,000千件を切るなど、米国の景気の冷え込みが示されたことで米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ終了観測が意識され、2,000US\$/ozを超え上昇した。しかし7日発表の米3月失業率は3.5%と前月を0.1ポイント下回り、景気悪化懸念の中でも労働市場の堅調ぶりが示され、聖週間明けの11日、若干下落した。12日発表の米3月消費者物価指数（CPI）が前年同月比5.0%上昇、伸び率は9か月連続鈍化しインフレの縮小傾向が示唆され、FRBが早期に利上げ停止との観測が強まり、米ドル下落も意識され翌13日、当月最高値の2,037.8US\$/ozをつけた。
- ② **好調な中国経済と低迷する米国経済で高値を横ばい**：14日、FRBのWaller理事は、根強い高インフレを鈍化させるため一段の金融引き締めが必要と発言、早期の利上げ停止観測が後退し、米10年債利回りが上昇、下落に転じた。18日発表の中2023年Q1実質GDPが4.5%増加等と、好調な中国景気から中国証券に資金が流入しているという見方もあり一層下落した。20日発表の米新規失業保険申請件数が前月比6千件増加、FRBの利上げ停止観測が再び強まり2,000US\$/ozを超えた。24日、米First Republic銀行が2022年末から預金が4割減少と発表し、25日小幅に上昇したが、前月からの相次ぐ銀行の経営破綻を踏まえ冷静に受け止められた。市場では翌月2～3日に開催される米連邦公開市場委員会（FOMC）で0.25%の利上げが有力視されているが、その後は利上げ打ち止めとの観測が広がっており、様子見から値動きは鈍く、1,982.6US\$/ozで越月した。

■白金族（PGM）市況動向

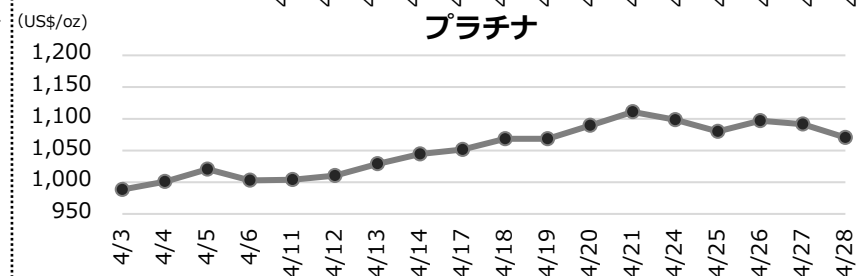
- ① **プラチナ市況**：当月最安値の988.5US\$/ozでスタート。プラチナ供給の8割を担い、計画停電が続く南アが本格的な冬になり、一層の電力逼迫とそれに伴う供給量の減少が懸念され、月を通じて1,000US\$/ozを超える高値で推移した。21日に当月最高値の1,111.0US\$/ozをつけ、1,070.5US\$/ozで越月した。
- ② **パラジウム市況**：当月1,473.5US\$/ozでスタート、6日当月最安値の1,434.5US\$/ozをつけた。18日、好調な中・実質GDP発表を受け、需要増加が意識され対前日比100US\$/oz以上急伸し当月最高値の1,623.0US\$/ozをつけ、1,493.5US\$/ozで越月した。

当月の値動き（AM/PM平均価格）

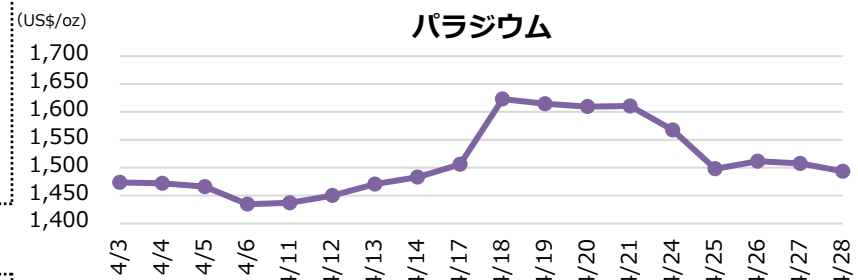
金



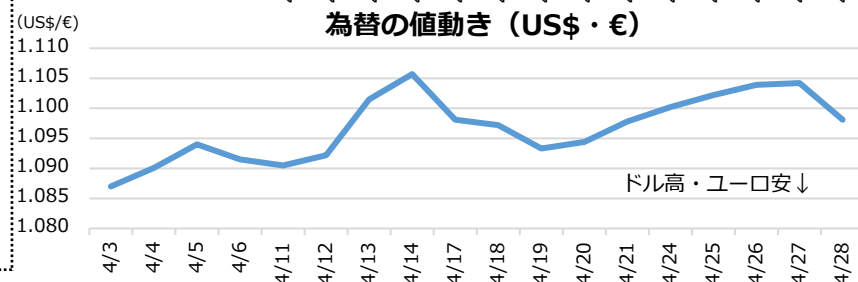
プラチナ



パラジウム



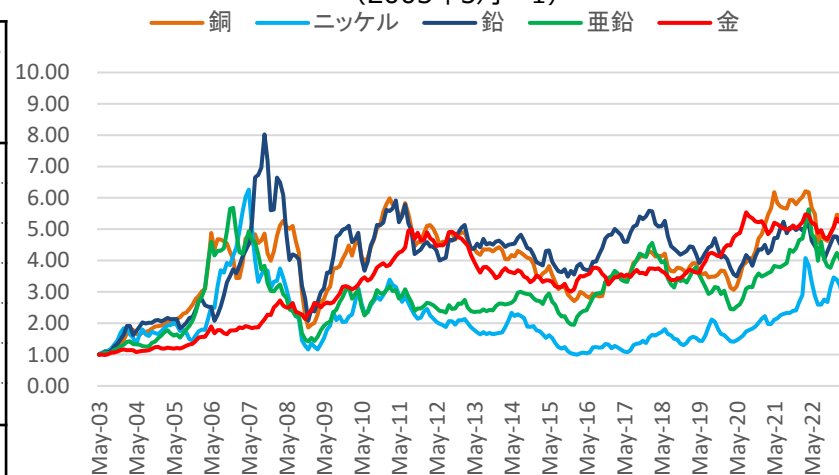
為替の値動き（US\$・€）



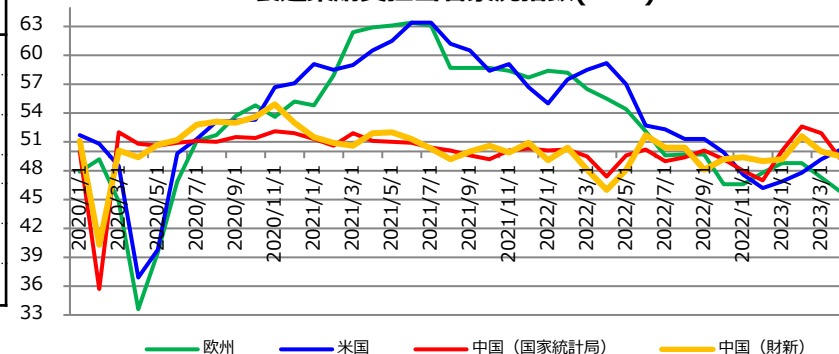
		銅	亜鉛	ニッケル	金	プラチナ	パラジウム
		LME現物 (US\$/t)	LME現物 (US\$/t)	LME現物 (US\$/t)	AM・PM平均 (US\$/oz)	AM・PM平均 (US\$/oz)	AM・PM平均 (US\$/oz)
本報告期	期 初	8,966.00	2,937.00	23,560.00	1,973.20	988.50	1,473.50
	期 末	8,571.00	2,680.00	23,770.00	1,982.63	1,070.50	1,493.50
	最高値	9,082.00	2,937.00	25,540.00	2,037.78	1,111.00	1,623.00
	最安値	4月14日	4月3日	4月20日	4月13日	4月21日	4月18日
	最安値	8,465.50	2,610.00	22,500.00	1,973.20	988.50	1,434.50
	平均	4月27日	4月27日	4月6日	4月3日	4月3日	4月6日
先物 (4月28日)	3か月	8,586.00	2,680.00	24,050.00	—	—	—
	24-Dec	8,580.00	2,673.00	25,260.00	—	—	—
	25-Dec	8,540.00	2,602.00	26,175.00	—	—	—
2023年 (当年)	期 初	8,390.00	3,004.00	31,200.00	1,839.15	1,084.00	1,799.50
	期 末	8,571.00	2,680.00	23,770.00	1,982.63	1,070.50	1,493.50
	最高値	9,436.00	3,509.00	31,200.00	2,037.78	1,111.00	1,811.50
	最安値	1月18日	1月27日	1月3日	4月13日	4月21日	1月9日
	最安値	8,209.00	2,610.00	21,895.00	1,813.85	914.00	1,364.00
	平均	1月4日	4月27日	3月23日	2月27日	2月16日	3月9日
		8,902.11	3,047.03	25,494.27	1,913.74	1,006.57	1,552.79

主要非鉄金属の価格推移
(2003年5月 = 1)

(JOGMEC作成)



製造業購買担当者景況指数(PMI)



米国経済	4月の製造業PMI (IHS Markit社発表) は50.2 (前月 : 49.2、予測 : 49.0) と続伸し、50を上回った。4月非農業部門雇用者数 (米国労働省発表) は前月比25.3万人増 (前月 : 16.5万人増、予測 : 18.0万人増)、失業率は3.4% (前月 : 3.6%、予測 : 3.5%) と前月よりやや改善した。
中国経済	4月製造業PMIは、国家統計局発表は49.2 (前月 : 51.9、予測 : 51.5)、財新発表は49.5 (前月 : 50.0、予測 : 50.3) と前月・予測より下落した。
欧州経済	4月製造業PMIは45.8 (前月 : 47.3、予測 : 45.5) と予測は上回ったが前月より下落し、9か月連続で50を下回った。